

個 別 の 人 権 課 題			北朝鮮当局による拉致問題等		
校 種	中学校	本 時 に 関 わ る 3 つ の 側 面	知 識 的 側 面	◎	
対 象 学 年	第3学年		価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	○	
教 科 等	社会		技 能 的 側 面	○	
単 元 名	これからの地球社会と日本				

1 単元の目標及び計画

(1) 単元の目標

国際社会における文化や宗教の多様性について理解するとともに、世界平和の実現と人類の福祉の増大を実現するためには国境を越えた協力が必要であることに気づき、国際社会における日本の国際貢献の在り方について、多面的・多角的に考察し表現することができる。

(2) 単元の計画

- 1 次…文化の多様性の尊重
- 2 次…日本の外交の現状と課題（本時を含む）
- 3 次…日本の領土をめぐる問題の現状
- 4 次…世界とつながる日本、世界平和のために

2 学習指導要領の該当箇所

中学校学習指導要領第2章第2節社会・第2各分野の目標及び内容・〔公民的分野〕

2 内容

(4) 私たちと国際社会の諸課題

ア 世界平和と人類の福祉の増大

世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識させ、国際社会における我が国の役割について考えさせる。その際、日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせるとともに、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。

3 本時の目標

国際社会が抱える課題の一つに「北朝鮮における人権状況」があることを知り、その解決に向けた国際社会の取組や日本が果たしている役割について理解するとともに、国際社会が抱える課題の解決に関心をもつことができる。

4 人権教育との関わり

この単元では、国家間の相互の主権の尊重と協力、国際機構などの役割などについて学習する中で、個別の人権課題の一つである「北朝鮮当局による拉致問題等」を取り扱います。「北朝鮮当局による拉致問題等」は日本の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題であり、国際社会が協調してこの問題を解決していく必要があることについて理解を深めるとともに、国際社会において日本が果たすべき役割について考察することも大切にしています。

5 本時で育てたい3つの側面

知 識 的 側 面	人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識 自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度
技 能 的 側 面	人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別をみきわめる技能

6 本時の学習過程

学習過程等	人権教育との関わり等	資料等
<p>■学習活動</p> <p>【前時に視聴したアニメ「めぐみ」の内容を振り返り、感じたことや気付いたことなどを出し合う。】</p> <p>(例) めぐみさんのご両親は親として我が子を取り戻したいという気持ちで行動しており、北朝鮮の人々を憎んでいるわけではない。</p> <p>(例) なぜご家族はアメリカ大統領に面会したり議会で演説したりしたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領土問題、核開発疑惑、民族・宗教紛争、環境問題など、国際社会が抱える課題の一つに北朝鮮に関する問題があることを説明する。 ・飢餓、政治犯と強制収容所、思想・表現の自由の侵害など、北朝鮮の人権状況は改善が必要であり、その一つに日本人拉致問題があり、この問題は国の主権と国民の生命・安全に関わる重大な問題であることを再確認する。 <p>【課題】北朝鮮の人権状況の改善に向けて、日本はどのような役割を果たしているのだろうか？</p>	<p>【技能的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別をみきわめる技能 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮の一般の人々を一方的に非難することは間違いであることに気付かせる。 	<p>○資料「アニメ『めぐみ』」</p>
<p>■学習活動</p> <p>【日本国内ではどのような取組が進められているのだろうか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拉致問題対策本部の設置が設置されていることや拉致問題に係る法律が施行されていること、また、12月10～16日までを北朝鮮人権侵害問題啓発週間と定め、「拉致問題を考える集い」等の様々な活動を国や地方公共団体が行っている事例を紹介する。 ・ブルーリボンの取組を紹介する。 <p>ブルーリボンとは、日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青」、被害者と家族を結ぶ「青い空」をイメージしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮との間の輸出入を禁止するなど北朝鮮に対して様々な圧力を加え、拉致問題の解決に向けて行動するよう強く要求していることなどを説明する。 	<p>【知識的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拉致は国民に対する人権侵害であり、我が国の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題であることを確認する。※内閣官房拉致問題対策本部が作成したパンフレットにある「拉致問題Q&A」などの活用も考えられる。 	<p>○資料「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律（平成18年）」（抜粋）</p> <p>○資料「ブルーリボン」</p>
<p>■学習活動</p> <p>【日本政府は国際社会に対して、どのような働きかけを行っているのだろうか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本はEUと共同して北朝鮮人権状況決議を国連に提出している。 ・米国や韓国とも解決に向けて連携・協力している。 ・国際会議や首脳会談等あらゆる外交上の機会を捉えて拉致問題を提起し、外国からの理解と支持を得ている。 ・戦後の日本の外交は、平和主義と国際貢献を重視してきており、拉致問題の解決もこの方針に沿うものである。 	<p>【価値的・態度的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拉致問題を生徒が自分と関わりがあることとして捉え、認識を深められるよう、啓発週間での様々な啓発事業を紹介する。 	
<p>【まとめ】北朝鮮が抱える人権状況をはじめとする課題は、国際社会全体で解決すべき問題であり、日本政府は国内・国際社会の両面から主導的役割を果たしている。</p>	<p>【知識的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解 <p>【指導上のポイント】</p> <p>自由、正義、尊厳などの基本的人権に関わる概念は国際社会全体で共有すべき普遍的価値をもつことを確認する。</p>	
<p>・日本政府はこれからどのような取組ができるだろう。</p>		